

自分らしく生きるには

2月3日 消費生活講演会



作家・吉永みち子さんが「自分らしく生きる～先が見えない今の時代に～」と題して講演。自らの経験を織り交ぜた話に、約300人の参加者が熱心に聞き入りました。

訪れた人へ感謝の気持ちを

2月9・10日 久米の里感謝祭



道の駅「久米の里」で感謝祭が開催されました。買い物に訪れた人には、手作りの甘酒がふるまわれ「体が温まる」「甘さがちょうどいい」などと喜ばれていました。

中国3大都市けんみんショー

2月9日 中国文化入門講座



津山工業高等専門学校教授・杉山明さんが、北京や上海、広州の地域性を比較しながら中国について講演。画像を使った説明に60人の参加者は関心を深めていました。

財政見通しに関心高まる

2月14日 土地開発公社解散プラン説明会



事業再生に詳しい弁護士・松嶋英機さんの講演と市民説明会が開催され、市民など約130人が参加しました。参加者は、真剣な表情で聞いていました。

笑っているおじいちゃんが社会を救う

2月16日 さん・さんセミナー・子育て講座



孫育てを楽しみ、自分の趣味も社会貢献も行う「イクジイ」の石田正邦さんが講演されました。約30人がイクジイを目指そうと熱心に聞いていました。



学生ならではの発想で競う

津山餃子レシピコンテスト

2月1日、美作大学（北園町）で、津山産小麦を使った皮で津山産食材を包む津山餃子のレシピコンテストが行われ、美作大学と津山商業高等学校の学生・生徒約50人が参加しました。ホルモンや黒豆などを具材に、イタリアンやスイーツなどアイデアいっぱいのレシピが披露されました。審査員を務めた人から「ぜひ、うちの店で提供したい」と声を掛けられたレシピもありました。

また、参加者は、お互いに作った餃子を食べて感想を述べ合っていました。



検定で発信！津山の魅力

第2回美作の国つやま検定

2月11日・20日、津山商業高等学校の商業クラブが津山の魅力を掘り起こし、次世代に伝えることを目指して開催しているご当地検定に51人が挑戦しました。

津山の歴史や観光などの分野から、今回は「江戸時代」に関する問題を中心に50問が出題されました。問題の作成者の一人、池田充志さん（津山商業高校3年生）は「考えた問題の修正など、できあがりまでの作業が大変でした」と話してくれました。来年も2月に開催するそうです。

地域で守る文化財

市消防団文化財防火訓練



1月27日、文化財防火デー（1月26日）に合わせて、国指定重要有形民俗文化財「田熊の舞台」を有する田熊八幡神社（田熊）で、市消防団が防火訓練を行い、東部方面隊の約130人が参加しました。

訓練は、神社付近で林野火災が発生したという想定で行われ、団員は神社までの急な坂道を、連携して迅速にホースや小型動力ポンプを運び、放水を行いました。

訓練を行う真剣な表情からは、自分たちで地元の文化財を守ろうという意識が伝わってきました。

心を込めたおもてなし

雪月花こども茶会

2月10日、阿波公民館で雪月花こども茶会が開催されました。この茶会は、阿波っ子伝統文化茶道教室の子どもたちが、地域の皆さんを招いたもので、参加者は、子どもたちがたてたお茶を楽しみました。

3年間、茶道を習ってきて、初めておてまえを披露した芦澤和美さん（阿波小6年生）は「いつもと違う緊張感があったけど、思うようなおてまえができてよかったです。これからも続けていきたいです」と笑顔で答えてくれました。



津山産小麦のグルメに舌鼓

津山サンド新商品発表・試食会

1月27日、市役所東庁舎で市内業者が開発した津山サンドの新商品発表・試食会が行われ、公募した市民や小麦の生産者など約60人が、12品目の商品のアンケートに答えました。

津山産小麦で作ったサンド生地に、黒豚や黒豆、ショウガなどの津山地域の特産品・農産物を挟む津山サンド。ハンバーガーのようなものから、お菓子のようなものまで、さまざまな種類があり、参加者は一つずつ試食しながら、味や感想などをアンケート用紙に記入していました。

